

月刊反トマホーク通信 vol. 3

86年1月1日

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095



今年もヤルゾ!!
核艦船入港拒否!!
G.I.基地撤去!!

35隻の原潜が...

854

●ちよっとおそくなりましたが、「通信」のオマケ、新年号です。今年も頑張りますよう! 東京のトマ喰い虫社では、暮もあし迫った12月29日、渋谷の新事務所への引、こしを終えました。心算一転、はり切っています。

●12月も、反艦型原潜の入港があいつぎました。横須賀には、8日のパーミット(スレ)シャー級:トマホーク艦ではない。12日に三度目(?)のヒーストン(ロスアンジェルス級)として14日にはロスタード(スタージョン級)。昨年一年間で30隻、そのうちの22隻がトマホーク艦、あるいは予定のロス級、スタージョン級です。伍世保にもう隻。うち4隻がロス級、スタ級。86年も入港ラッシュが続くことを覚悟です。

●さて、私たちの忘れたはならない12月8日。この日を前後して各地で多様な、意欲的な行動、催しが持たれました。記事とスクラップ情報でそのいくつかを紹介しましょう。

●この版下作りの追い込みの最中に、ヨコスカから知らせて。ロス級原潜・ブシマートンの初入港。5日正午。抗議行動は同日午後、デート前まで……。

ビューストン 三度目の入港に 抗議行動 (1985.12.13~14)

12月12日正午すぎ、ロサンゼルス級攻撃型潜水艦「ビューストン」(トマホークミサイル搭載艦)が入港した。10月17日、11月8日に二回入港した。この日は、空母ミッドウェイも続いて入港した。

「異例」ともいえる反復入港だが、横須賀がたんなる神祕な存在にとどまらず、作戦の指揮中枢としての役割りを歴史的に高めていることの直接的あらわれである。その意味で、異例でもなんでもなく、こゝが「常態」なのだという認識が重要だろう。

運動の側の対応は12日、非核市民宣言運動ヨコスカが、横須賀市役所へ、全国運動と、神奈川県警に申し入れ、国が神奈川県庁に申し入れ入港拒否を求める申し入れ。自治体の対応は基本的に変化なし。しかしかなり深刻に受けとめている。というわけがある。同日夕、基地ゲート前の抗議行動に集ったのは15人。日市重を中心に、米大使館への抗議行動もとりくまふた。14日には、横須賀で25人が抗議デモ(主催は、非核市民宣言運動) ビューストンが13日に出発、入港がわりに14日にはビューストン

入港したら... 抗議と要請を忘れずに
ハガキ、電報、電話を集中しよう!!

- アメリカ大使館
東京都港区赤坂二丁目
03-3563-1100
- 外務省
東京都千代田区霞が関二丁目
03-5601-3111
- 神奈川県庁
横浜市中区日本大通一丁目
045-210-1111
- 横須賀市役所
横須賀市小川町二丁目
046-611-2100

ハガキや電報はコピーを是非2枚に
つけて下さい。紙面でも紹介したいと思います。

あらためて...「反トマホーク」はまだまだこれから!!

黒も 灰色も グメンだ!! 12.1ヨコスカ集会

85年秋のトマホーク搭載艦ビューストンの相次ぐ入港は、これまで異常とされてきたことが常態化した。一つあることの危険性をまざまざと見せつけました。第一次の入港(10・17・18)の際のハンススト抗議、第二次の入港(11・8・9)の際の連日デモ等。その都度の抗議行動と併せて、トマホーク配備状況の体系的な把握と運動の体制づくりが求められて来ています。

「黒も灰色もグメンだ!! 12.1ヨコスカ集会」は、この様な問題について共に考える。反トマホーク首都圏運動と非核市民宣言運動ヨコスカの共催で一ハロのり人々の参加を得ました。地元で運動を進めるヨコスカの人々を始め、東京・神奈川・千葉など首都圏の各地域や労働組合のメンバー、生活クラブ生協組合員や核問題を追跡するジャーナリスト、といった様々な人々からの参加で議論を深めました。集会後のデモでは各参加団体ごとに工夫を凝らした横断幕のコンクールも行われ、にぎやかにヨコスカの地での再会を誓い合いました。

今反戦を語る2.7討論集会

——中曽根政治を撃つ——

「京都発」12月7日野暮田解放センターで「今、反戦を語る2.7討論集会」が約60人を集めて開かれた。主催はトマホーク阻止京都連絡会議。地域のさまざまな分野の活動者の生の声に耳を傾けあい、中曽根政治と対決する地域でのヨコのつながりを模索しようというねらい。発言者は反トマ、反天皇制、労働運動、指紋(3)押捺、学生運動、刑法、エコロジーの分野から多彩な顔ぶれ。京都では初めての集合ゆせ。「こゝだけのメンバーが集ったというだけでも意義は大い。こゝをきっかけに地域での連帯をていねいに作っていきな」と主催者。

集会後、8日午前0時を期して、「反戦行動」の出発。参加者は予想をはるかに越える35人。全員が大阪までの48kmを徹夜で歩き通した。途中、枚方では地元的女性グループから夜食の差し入れも。到着地大阪では「戦争への道にストップをかけよう」大改集会(主催実行委)に合流した。(スラッパ情報参照:青森県)

スクラップ情報

あなたの町・地域の新聞など目にとまり記事を送って下さい。地方紙や地方版にのっていないものも本紙の情報には大いにあります。行動や催しの記事には、日時も必ず！(編集部)

※10-ミット(1/8)

●あいつぐ原潜入港

●原潜バーミット入港
米海軍のスレッシュャー級原潜バーミット(三三三〇〇ト)艦長J・M・ラッシュング大佐ら百三十人乗組みは八日午後二時四十分、在日米海軍横須賀基地に入港した。これと同基地への原潜入港数は過去最盛だった昨年一年間の記録を四壁上回る二十八隻となった。

「ヒューストン」入港

横須賀基地 85.12.13
原潜 29隻
県、核チエック要請
米海軍のロサンゼルス級原潜「ヒューストン」(六〇〇〇ト)艦長C・A・ワット、ひが十二日午後一時十分、横須賀基地に到着した。同基地への原潜入港は、過去最盛だった昨年一年間の二十四隻を上回る二十九隻となった。また、四日午後一時半、海上自衛隊との日米対峙特別演習を終えた空母ミッドウェー(五二〇〇〇ト)艦長L・D・ミクソン大佐ら約四百五十人乗組みも、一日午後二時に横須賀基地に入港した。

●全国運動が記者会見

反核市民団体の「トマホーク装備は二隻」
反核市民団体の「トマホーク」の配備を許さず、全国運動(事務局・東京・梅林宏道代表)は六日、同団体が参加する国際団体の「反トマホーク太平洋運動」の記者会見で、トマホークを装備した米艦の来航に反対する旨を述べた。同運動は、反トマホーク太平洋運動では、シェン(重年艦)一九八五年(一九八六年版)の文獻と内部情報により、艦隊をリストラップした。日本に寄港し得る太平洋艦隊の所屬艦は、トマホークを装備した「ミッドウェー」の二隻と見られる。また、米海軍公報に「トマホーク」の配備は、一九八五年(一九八六年版)の文獻と内部情報により、艦隊をリストラップした。日本に寄港し得る太平洋艦隊の所屬艦は、トマホークを装備した「ミッドウェー」の二隻と見られる。

※ヒューストン(1/2)

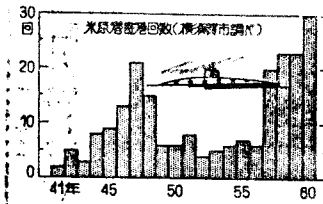
原潜入港に抗議
市民団体、県に申し入れ
県内の反核市民グループ「かながわ非核交流会」(青柳耕三代表)など四団体は十日、核トマホーク搭載の濃い疑念が持たれている米原潜「ヒューストン」(六〇〇〇ト)百三十人乗組み組が横須賀港に三回目の入港をしたことに抗議して、長洲知事に対し、ヒューストン入港拒否の表明などを求める申し入れ書を提出した。また、十月十七日の一回目の入港に際し、東京・数寄屋橋で抗議のハンストをした「トマホークの配備を許さず全国運動」の梅林宏道代表も同日、知事に県独自の判断で入港拒否の意思表示を求める申し入れ文を出した。

原潜30隻目が入港

年間最多横須賀へ「ピンタド」更新中

米海軍の「ピンタド」(六四〇〇ト)艦長R・P・シドウィック中佐ら百三十人乗組みが十四日正午、米海軍横須賀基地に到着した。同基地への今年の原潜の入港は、今回でちょうど三十隻に達した。過去最盛だった昨年と昨年の二十四隻を大幅に上回り、史上最高記録を更新している。

注目されるのは、昨年六月から一部で核搭載ミサイル・トマホークの配備が進んでいるロサンゼルス級とスライジョン級の人数が全体の三分の一も占めていること。うち、全艦にトマホーク配備が予定されている最新鋭のロサンゼルス級は十三隻入港しており、米ソ対立の中で米核戦路における日本の前線基地化を強く印象づけている。



米原潜「ブレマトン」横須賀へ初入港

米海軍のサンゼルス級原潜「ブレマトン」(六四〇〇ト)艦長A・R・シムズ中佐ら百三十人乗組みは五日正午、在日米海軍横須賀基地に初入港した。同基地への原潜入港は、過去最盛だった昨年と昨年の二十四隻を上回る二十九隻となった。また、四日午後一時半、海上自衛隊との日米対峙特別演習を終えた空母ミッドウェー(五二〇〇〇ト)艦長L・D・ミクソン大佐ら約四百五十人乗組みも、一日午後二時に横須賀基地に入港した。



入港した「ブレマトン」(横はミッドウェー)

※85.12.13
ブレマトン(1/2)

●おとよに共同演習

13/4(1/5) 和日
「ミッドウェー」など参加
日米共同の対潜特別訓練
防衛庁海上幕僚部は三日、空母ミッドウェーなど米海軍部隊と海上自衛隊の共同対潜特別訓練を、七日から十一日にかけて本州南方海域で行うと発表した。米海軍部隊はミッドウェーのほか、同艦隊の対空ミサイル駆逐艦「補給艦」など計七隻と対潜哨戒機「P-3C」で第七〇空母任務部隊司令官W・L・チャタム少将が指揮する。海上自衛隊部隊はヘリコプター搭載護衛艦「くらま」など六隻とP-3Cで第二艦隊司令部、吉川圭祐・海将の指揮。米海軍の原子力潜水艦を含む日米の潜水艦数隻が「敵」の役をし、ミッドウェー艦隊を敵艦に見立てた防空戦訓練などもする。対潜特別訓練はミッドウェーが参加するのは五十七年八月の訓練以来だ。

♡ 貴方はもう署名してくれましたか??? ♡

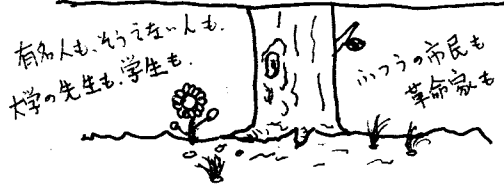
宣言

「反トマホーク第三次キャンペーンの開始に当って」

♡ 昨年10月に送られて、徐々に全国の人々を地域や職場、人々の目へ届ける。年末には約170名の人々が賛同の連署をしてくださいました。これを機会に私達のお互いの意志を確かめ合ひ、更に多くの人々に呼びかけていく為、このニュースを読んで下さる貴方もぜひ連署して下さい。近所の方にもぜひ呼びかけてみて下さい。用紙はトマホーク会館にあります。協力して目標の1,000人達成へ向けてがんばりましょう。

宣言に賛同し連署して下さい。

第三次キャンペーンの発足にあたって、この宣言を送るだけ多くの人々とともに発したいと思ひます。全国で千名近い人々が名を連ねることができれば、お互いの励ましになり、一つの方になると思ひます。ぜひ連署下さい。また、連署とともに、111000回のカンパに御協力下さい。

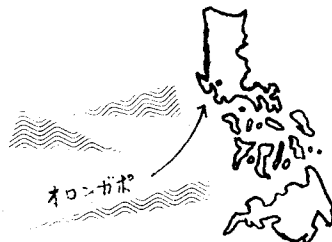


こんな人も連署してくれました

松下竜一さん、菅孝行さん、伊藤成彦さん、坂本徳松さん、渋谷弘司さん、栗山次郎さん、青柳精三さん、武蔵一平さん、いづもさん、吉川勇一さん、矢山有作さん、松江澄さん、佐々木竹一さん、湯浅一郎さん、渡辺勉さん、花崎昇平さん、三輪妙子さん、水戸蔵さん、草刈孝昭さん、清水知久さん、藤島雄一さん、栗原貞子さん……etc.

反トマホーク アジア太平洋運動 第1回 運営委員会 開催

1985.12.14~17 オロングポ(フィリピン)



12月14日から17日にかけて、「反トマホークアジア太平洋運動」の第1回運営委員会がフィリピンのオロングポで開催された。全国運動から梅林宏通さんと、吉田満智子さん(京都)が参加。会議の内容を梅林さんに聞いた。(文責・編集部)

スズック星地の町で

開催地オロングポは、アメリカが海外に持つ最大の基地・スズックのすぐ近く。経済の99%は基地に依存する小さな町である。この町に4カ国から6人が集った。フィリピンからジミー・メンドーサ(Jimmy Mendoza)、エルモ・マナバット(非核フィリピン連合)、ハワイからネルソン・フヌスター、オーストラリアからニック・マクラレンの各氏。そして日本の2人。残念ながらニュージージーランドとカナダは参加できなかった。ほとんどの人が初対面同士である。(後日、香港とベトナムも運動に参加)

米国の海軍艦隊と核戦略

ネルソン氏から、84年3月発表以来の運動戦略について報告。骨子は、①とどろきの国の運動の強化によって太平洋全体を高める ②太平洋以外の運動とつながる(例、6月行動) ③核戦略を米国の戦略とする。つづいて各国からの報告。

オーストラリア

ニュージージーランドの政策や、カナダ共和国の成立などに刺激を受けて運動間の連携の気運が急速に盛り上がりつつある。東部海岸にオーストラリアの非核宣言が打ち出された。その地域では15万から20万の反核軍民が組織されている。88年の選挙をめざして全面的な攻撃(1)へ。共通のスローガンは① No Warship (軍艦) ② No Uranium Mining (ウラン採掘) ③ No Nuclear Vessels (核動力船) (フィリピンからは、全体の解放戦争の一部であるとの認識が強調された。また各国でのフィリピン連帯運動がマッシュアップすることへの懸念、共同のテーマ(反核・反トマ)を持つ国際活動の必要性が提起された。カナダでは、ナースにある発射実験場の閉鎖を継続運動、アメリカでは、核戦略の母港を4、5カ所から1カ所に集中させる増やすという計画への反対運動がさかん化している。

6月国際共同行動と意欲的に!!

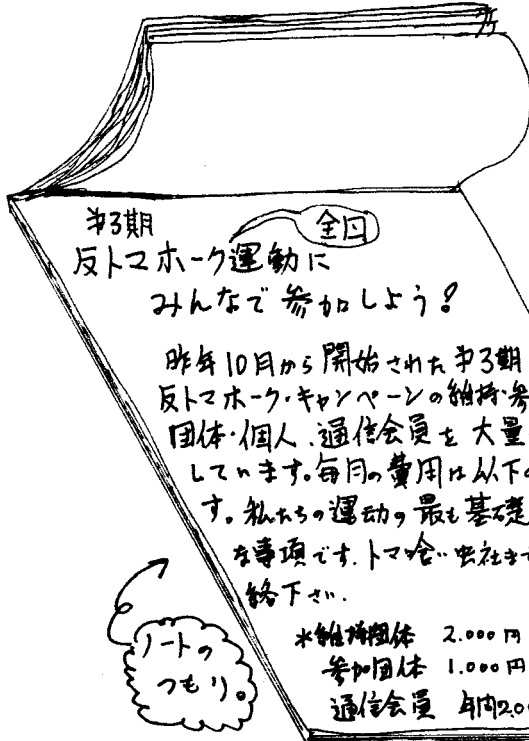
今後モエラにトマホーク配備、核戦略入念反対の運動を強化することが合意された。そのために①今年6月、国際的な共同の行動を昨年よりいっしょと意欲的にとりくむ。6月29日が第一候補(ただし太平洋運動との調整が必要) ②87年に反核サミット会議を開催する。場所は未定(日本も候補に)。さらに共同運動や、工場地、軍事回廊、外国基地に対する運動。非核独立地域の推進などが確認された。

紙面の都合で十分に紹介できなかったが、海軍艦隊(1)

場にはせない。核戦略入念反対を共通の課題とする反核運動の新しい潮流が生まれていることを実感した。ニュージージーランドのインパクトは予想以上に大きい。海軍の視点は、独立・自決と反核を結合させている。その意図では、日本はよく知っている。日本の運動がどのだけの力を持つていくかが決定的な重みを帯びている。

と云うことで、気になったニュージージーランドの非核法制化の動きです。この会議の直後、法案の全米運動の側からの分析評価が送られてきました。今翻訳してここに載せてみます。どうぞ詳しく紹介したいと思います。(編集部)

ヨロシクねっ!!



今日の会計報告 (10.1.85~12.15.85)

支出		
-家賃	(10.11.12月分)	22,500-
-電気	(10.11月分)	8,089-
-ガス	(10.11月分)	5,933-
-水道	(9.10月分)	2,560-
-電話	(10.11月分)	77,144-
-印刷		62,000-
-通信		102,405-
-雑費		26,740-
		¥509,871-

収入		
-会費		162,000-
-カンパ		42,132-
-新刊委員会のカンパ		6,800-
-スライド貸出料		2,000-
-オキ期宣言署名		152,000-
-ハニスト曲中残金		97,208-
-借入金		55,000-
		¥517,140-

¥7,269の黒字。

※トマホークの、Bの諸行動の財政は
独立採算で別処理とさせていただきます。
コメント 毎月薄氷を踏む思いでやりく
りしています。会費の不足は
会費納入をストップすれば、反トマホーク
の財政は破産するということに
感じています。(1/29)

編集後記

◆毎月1日付発行の計画でいたのが第3号(新編集体制としては第2号!)に
してこれです。正月という全国共通的特殊事情のなせる業ゆえお許しを。
12月8日、私のいる神奈川の生活クラブ生協の主催する「反戦の集い」に参
加しました。「非核兵器県宣言」作りに大きな力を注いだ主婦たちが、「県
宣言後」の具体的運動作りを探るために企画した多彩な内容の集いでした。
企画のひとつである「ティーチイン」のテーマも「非核の実質化」といったとこ
ろでした。小さな集まりですが、たゞ重なる原稿の入港が宣言の空洞化をも
たらそうとしている今、自治体(長洲知事)に「入港拒否」に踏み切らせる
ために何が出来るのか? 今、答えがあるわけでもない。しかし、その事に
真剣に悩み、知恵を寄せ合う共同のテーブルが出来つつあります。今年1年、
正念場です。(たまご)